

情報公開文書

聖隷三方原病院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた検体やカルテ記録を利用することによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究の計画や方法について詳しくお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ記録を利用することをご了解いただけない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] インフルエンザ治療の院内マニュアル策定による処方動向への影響

[研究機関名] 聖隷三方原病院

[研究機関の長] 荻野和功

[研究責任者] 宮内英俊 (薬剤部・薬剤師)

[研究の概要]

■ 目的・方法 (研究期間も含む)

薬剤選択の適正化のためのフォーミュラリーと呼ばれる「患者さんにとって最も効果的な薬の使い方優先度リスト」を策定する取り組みが多く報告されています。当院では 2019 年 11 月に院内抗菌薬使用ガイドラインの改定に伴いインフルエンザの診療マニュアル(以下マニュアル)改訂を行いました。その際、抗菌薬適正使用支援チームが各文献を基に、従来行われていなかった治療薬の推奨度の順位付けを提唱しました。内服及び外用インフルエンザ治療薬においてオセルタミビルを第一選択とし、ラニナミビル、バロキサビル、ペラミビルを第二選択としました。今回、マニュアル改訂がインフルエンザ治療薬の処方動向に影響を与えたのか調査します。また、副次的に薬剤費へ影響を与えたのか試算します。

方法：本研究は既存の臨床情報(診療で得られた情報)を用いる後ろ向き観察研究です。

研究実施期間：実施承認後～2020 年 9 月 30 日

■ 対象となる患者さん

2018年12月～2019年1月、2019年12月～2020年1月の期間中に当院でオセルタミビル、ラニナミビル、バロキサビル、ペラミビルが処方された方

■ 研究に用いる試料・情報の種類

試料：なし

情報：年齢、処方薬の投与量 (用量・処方日数)

[問い合わせ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先]

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院

宮内英俊 (薬剤部・薬剤師)

電話 053-436-1251 FAX 053-438-2971